

只見沢右岸倉前沢 沢登り講習会 平田 信良

■山行年月日:2021年6月13日

■メンバー:CL 齋藤宇、国分勉、
齋藤憲一、大竹幹衛、大竹尚子、
杉崎圭洋、佐藤健、増田寿代
田中秀一、平田信良

朝6時三島町の道の駅集合し、只見沢の駐車場で待つ尚ちゃんと増田さんに合流。晴天に残雪が残る浅草岳を見ながら準備をする。倉前沢は六十里越トンネルの入口の只見沢橋から2段の滝が見えることから以前から気になっていたとのこと。

只見沢を渡渉し倉前沢に入る。最近晴天続きで只見沢の水量も多くはない。きれいなナメを進むとスノーブリッジがあった。割合ししっかりしていたので一人ずつ下をくぐる。程なく二股に到着。右股に入る。橋の上から見えていた滝は左岸の滝のようだ。しばらく進むとF1。ザイルを出しビレイやホイッスルでの合図の確認など行う。私は久しぶりでザイルの結び方から確認。何とも恥ずかしい。この滝はいきなりシャワークラ
イム！楽しい！

この先も次々と滝が続き、解説を交えながら楽しく登って行った。天気予報では午後から崩れるとのことだったので、お昼前で行動停止。

蝉の声を聞きながらのんびりと昼食をとった。沢の中は風も適度にあり、暑くも寒くもなくちょうどいい感じ。眼下には田子倉湖も望め、とてもいい沢だった。憲ちゃんは、目の前の岩稜が気になるようで、登りたくて仕方がないようだった。

下りもザイルのかけ方などの復習をしながら、懸垂下降で楽しく下ることができた。最後の滝では尚ちゃんが下降器を滝つぼに落とすハプニングもあり、幹衛さんが靴を脱いでほだして探したり、いろいろチャレンジしたりしたがなかなか見つからず、あきらめかけたころ尚ちゃんが根性で見つけることができた。

両側の雪が解けたばかりのところには、ウルイやゼンマイが出ていたので、お土産にとって帰ろうとしたが、自分で取るよりブンさんがプロの技で素早く取ってくれた。

久しぶりの沢登りでしたが、のんびりと楽しく自然の中で過ごすことができて大満足でした。

